

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0421300042		
法人名	社会福祉法人 豊明会		
事業所名	グループホーム 桂葉 ユニット:蔵王		
所在地	宮城県栗原市高清水新桂葉278-2		
自己評価作成日	平成29年12月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人豊明会は、特別養護老人ホーム若藤園、特別養護老人ホーム桂葉や障がい者施設等多数の事業所の運営をしております。グループホーム桂葉は高清水地区を中心とした、住み慣れた地域の中で暮らせる環境を大切にしております。グループホーム桂葉の基本理念は「私たちは、アットホームな環境を整える為、地域の皆様方と共に楽しい時を過ごしなが、温かい家創りを目指します。」を職員一同心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム桂葉の前には、田園風景が広がり季節の移ろいを感じることができる。敷地内には特養ホーム、デイサービス、障がい者施設があり、行事や医療面で連携している。また、近隣には栗原市から委託された瀬峰・高清水地域包括支援センターがある。職員は理念の「アットホームな環境を整え、地域の皆様方と共に楽しい時を過ごし、温かい家創りを目指す」を確認しながら、利用者のできることや、やりたいことを尊重し、一人ひとりに合わせたケアを行っている。事業所の通信「きずな」や「豊明会だより」を毎月行政区全戸に配布し、事業所の理解に繋げている。法人の夏祭りには、地域の多くの人が集まり、花火大会等を共に楽しむことができ交流の場となった。協力医療機関がかかりつけ医として訪問診療で健康管理を行い、24時間体制で対応している。職員が意見や要望を出しやすい環境を整え、ユニット会議やスタッフ会議のほか、年2回の面談を行い、出された意見など運営に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23、24、25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH桂葉 ）「ユニット名 蔵王」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えて行く為、職員一人一人が理念を理解し実践に繋げていけるよう努めている。	理念「アットホームな環境を整え、温かい家創りを目指す」を掲げ、利用者が楽しく感じられるような居場所づくりを心掛け、介護計画にも反映させている。理念は事務所内に掲示し、職員は確認しながらケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	豊明会の夏祭りに地域の方々に参加して頂いたり、高清水地区の敬老会、生涯学習祭り等行事へ参加し地元の方々とは交流する事に努めている。	事業所の夏祭りに地域の多くの人々が参加し共に花火大会など楽しんだ。地区の敬老会や生涯学習祭りなどの行事へ参加し交流を深めている。事業所通信「きずな」や「豊明会だより」を行政区内の全戸に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者への支援を基盤に、地域の方々の認知症の人への理解や支援を地域包括支援センターの方々と共に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、利用者状況や取組等の報告をしている。会議で出された意見等はサービスの向上に活かしている。	市職員、地域包括職員、区長、民生委員、家族代表の参加で年6回開催し、満足度調査の結果、利用者の状況や事故報告、行事等の案内をしている。利用者が外出したことに気づけなかったケースから、施錠、夜間帯の見廻り強化、センサー設置等、安全性を向上させた。また、事故報告書の形式を変え、改善対策を明確にさせることにした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員には、運営推進会議へ参加して頂き事業所の実情を伝えたり、地域の情報等を情報交換し協力関係を築いている。	運営推進会議で、市職員に事業所の実情を伝え理解を深めている。市からは認知症ケアや感染症対策などの研修会や集団指導のお知らせ等がある。また、生活保護を受けている利用者の医療費や家族の転居、事業所の運営上の制度について確認するなど連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の実施、身体拘束についての話し合いを設け、学ぶ機会と理解に努めている。利用者、家族様に対しては説明し身体拘束の弊害について理解いただいている。	年1回、内部研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、外出傾向を把握し、表情や様子から判断し、声かけや一緒に出かける等、寄り添うケアをしている。防犯対策のため玄関を施錠(19:00~8:00)し、夜の見回りを強化する対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について内部研修の実施、学ぶ機会を持ち理解を図っている。日常生活の関わりの中で虐待が起きないように十分に注意してケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で権利擁護に関する制度の理解を学ぶ機会を持ち理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な説明に努め不安や疑問点がないか確認し理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を通し、意見や要望を伺う機会を設けている。又、面会時にも意見や要望、心配等がないか伺いサービスの向上に努めている。	入居時や面会時、また電話で家族から要望を聞くほか、年1回、6月に13項目について満足度調査を行い、要望を運営やケアに生かしている。ユニット会議やスタッフ会議で出された要望等を確認し、改善点等を話し合いケアの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、ユニット会議を毎月行い、職員の意見や思い、提案を聞く環境を整えている。	年に2回、日常の業務、一人ひとりの仕事に対する思いなどからパーソナルレポートを作成している。また、面談を行い、意見・要望を聞く機会を設けている。毎月、スタッフ会議や全体会議で意見交換し、代表者や管理者は職員の意見を聞き、反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の職員面談の実施。職員個々の目標や達成、勤務状況を把握し、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長は、管理者や職員の経験・能力に応じて、研修等の機会を計画し、職員の育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連医療法人の事業所と連携会議に参加するなど、情報の共有を図っている。又、外部研修を通して同業者とのネットワーク作りや情報交換しケアの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人様、家族様の意向を確認し、不安なく今まで通りの生活が続けられる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に対する不安や、質問等を伺い、分かりやす説明に努め、納得した上で安心してサービスを利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や家族様の思いや状況等を確認し、本人様に合ったサービスの提案、支援をしている。他サービス機関との連絡調整も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の役割や出来ること楽しみながら、安心して行える環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子、状態等を面会時や電話連絡で伝えている。ご家族様の協力も得られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力を得て定期的な外出、馴染の方々との交流も図れている。地域の敬老会、お祭りや交流会に参加されている。	近隣や、瀬峰の五輪堂山公園へ花見、一迫のあやめ園の見学等へ行っている。地域の敬老会やお祭り等に参加し、馴染みの人との交流を図っている。家族の協力を得て、買い物へ行ったり、自宅に戻り地区の行事に参加するなど、外泊ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いを大切にし、共に過ごせる関係作り、環境作りに努めている。利用者の意向、思いに寄り添う対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談に応じ対応している。他施設や病院へ移る必要がある場合でも十分な説明を行い、事前に情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの個性、生活習慣を把握し、日常の関わりの中から思いや希望を引き出せるように努めている。	日々のかかわりの中で利用者に声がけし話を聞き、表情や仕草などからも思いをくみ取るよう努めている。職員で話し合い、一人ひとりの思いを検討しケアに生かしている。生活歴など家族や知人からの情報も大切に、今までと変わらない生活ができるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取りの情報を基に、入居後、家族や親戚等の面会時に話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや、職員間で気づきを大切に、一人ひとりの心身の状態や、役割、出来る事の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1回モニタリングを実施し、本人本位の暮らしを実現する為、本人、家族の意向の確認、必要な関係者と課題とケアについて話し合い、それぞれの意見を反映しながら介護計画を作成している。	毎月のユニット会議で利用者の状態を話し合い確認している。また、6ヶ月に一度モニタリングを行い、利用者本位の暮らしを実現するため、本人、家族、スタッフ、医師の意見を踏まえて、介護計画を作成している。介護計画は、家族の面会時等や遠方の家族には電話で説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果を個人ケース記録、介護日誌に記録している。職員間で情報共有し実践や介護計画に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の変化やニーズに合わせて柔軟な対応、支援が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌や地域の方から情報を頂き活用している。又、地域の消防と連携し、年2回の避難訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のかかりつけ医へ状態の報告と、週1回の回診を受けている。又、体調不良や急変時等24時間体制で連絡、指示を頂き対応している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診している。基本、家族が付き添い、受診前に利用者の状態を伝え、受診結果を共有している。必要に応じ職員が同行することもある。また、協力医療機関がかかりつけ医の場合、週1回訪問診療を受けている。体調不良、急変時には24時間体制で医師から指示を受け対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している特養の看護師の協力を得たり、協力医への相談等連携が築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関、医師との相談を行い対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について家族様に事業所ですることができることを十分に説明し、家族様と話し合いを進めながら行っている。	現在、看取りは行っていないが重度化した場合や終末期については、入居時に法人の関係施設と連携がとれていること、事業所ですることができることを説明し同意を得ている。食事が取れなくなった時や医療行為が常時必要になった場合には、特別養護老人ホームなど紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて定期的な内部研修の実施、マニュアルを備え付け全ての職員が実践できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成、定期的な訓練の実施に努め、災害時に対応できるようにしている。	火災、風水害、地震マニュアルがある。法人内の事業所マニュアルを統一化させると共に、災害発生時に法人全体で対応ができるよう見直しを行っている。内部研修の実施により職員全員が災害時の対応ができるよう努めている。避難訓練を夜間想定で1回を含む年2回、消防署が立ち合い実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーに配慮し、プライド、誇り、尊厳を傷つけない言葉かけや対応をしている。	年1回身体拘束や権利擁護と合わせ、プライバシー保護についての内部研修を行い、より良いケアになるよう努めている。丁寧な接遇を心がけ、プライド、誇り、尊厳を傷つけない支援をしている。呼び名は基本名前に「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いや希望を表せる環境作りや関わりに努めている。自ら選択できるような場面を作れるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々のペースに寄り添い、今まで通りの生活が続けられるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切にして、希望に沿った身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好性に十分配慮し、楽しく食事をする雰囲気作りをしている。利用者職員と一緒に準備や片づけをしている。	利用者の好みを把握し、楽しく食事ができる雰囲気作りに努めている。苦手なメニューの時には、代替えなどに配慮している。利用者は職員と一緒に配膳や片づけなど、できることを行っている。メニューは担当職員が作成し、法人の栄養士がチェック、手直しをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容は出来るだけバランスよく季節に合った食材を選び、調理方法にも配慮している。食事の際に水分も十分に摂取できるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や能力に応じて支援し、口腔状態の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心や自尊心を大切に、排泄のどの部分が出来ないのかを探りながら、出来ない部分を見極めて支援している。	排泄パターンを把握し、利用者に合わせたトイレ誘導、声かけを行い、羞恥心や自尊心に配慮し、個々の状況に応じながらの排泄支援をしている。排泄が自立できるように支援している。本人にあわせてリハパン、パットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物等で工夫したり、排便リズムを把握し便秘が考えられる時は、医師と相談の上下剤でコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望やタイミングに合わせて支援している。個々のやり方を伺いながら必要な部分を支援している。	基本的には週2回の入浴で、本人の希望や体調を考慮して入浴支援をしている。入浴拒否の際は、無理強いをせず、職員の交替、声かけやタイミングを工夫し対応している。入浴剤を利用し気分転換を図っている。体調が悪いときには清拭等へ変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を踏まえ、生活リズムが整えられるよう支援している。安心して気持ちよく眠れる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行っている。職員が手渡し飲み終えるまで確認している。薬の目的、用法や用量の理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴や能力、希望等に配慮しながら、役割や出来る事が続けられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事等を計画し、定期的な外出ができるよう心掛けている。	花見(瀬峰)、あやめ園見学(一迫)、紅葉狩り(鳴子)、白鳥見学(伊豆沼)、初詣(近隣の神社)等季節の外出を計画しているが、職員の人数の関係上、今年度は実施回数が少なかった。近隣の行事への参加や散歩等、利用者の要望に対応できない状況にある。家族と共に墓参りや外食、外泊してくる利用者もいる。	利用者の希望や意向を踏まえ、職員配置を工夫するなどして日常的な外出の機会を増やし、利用者の満足度を高めることができるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が支援している。利用者様の希望で職員と一緒に必要な物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から電話希望があった際はその都度対応している。手紙等は直接手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や生活感が感じられる環境作りと、安心感と居心地に配慮した工夫をしている。	ホールからは田園風景が広がり季節の移ろいを感じられる。手作りの掲示物が貼られ、トイレの表示やカレンダーなどは大きく見やすい。ソファや畳の小上がりがあり、ゆったり寛げるよう配慮している。温・湿度管理され快適な空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは利用者様が馴染の関わり合いが出来るよう座席に配慮している。又、ホールや和室にソファを置いて、独りになれる空間作りや思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の馴染のある家具や使い慣れた物を持ち寄って頂き、本人が安心して居心地良く過ごせるよう配慮している。	可動式ベッド、エアコン、ナースコール、加湿器が備え付けてあり温・湿度が心地よくなるように管理されている。使い慣れた家具や家族の写真、花、筆筒、テレビなどが置かれている。掃除が行き届き、整理整頓され、快適に過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境配備、トイレや居室に目印をつけたり、できることを続け自立した生活が送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0421300042		
法人名	社会福祉法人 豊明会		
事業所名	グループホーム 桂葉 ユニット:栗駒		
所在地	宮城県栗原市高清水新桂葉278-2		
自己評価作成日	平成29年12月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成30年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人豊明会は、特別養護老人ホーム若藤園、特別養護老人ホーム桂葉や障害者施設等多数の事業所の運営をしております。グループホーム桂葉は高清水地区を中心とした、住み慣れた地域の中で暮らせる環境を大切にしております。グループホーム桂葉の運営理念「私達は、アットホームな環境を整えるため、地域の皆様方と共に楽しい時間を過ごしなが、暖かい環境創りを目指します。」を基に職員一同心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム桂葉の前には、田園風景が広がり季節の移ろいを感じることができる。敷地内には特養ホーム、デイサービス、障がい者施設があり、行事や医療面で連携している。また、近隣には栗原市から委託された瀬峰・高清水地域包括支援センターがある。職員は理念の「アットホームな環境を整え、地域の皆様方と共に楽しい時を過ごし、温かい家創りを目指す」を確認しながら、利用者のできることや、やりたいことを尊重し、一人ひとりに合わせたケアを行っている。事業所の通信「きずな」や「豊明会だより」を毎月行政区全戸に配布し、事業所の理解に繋げている。法人の夏祭りには、地域の多くの人が集まり、花火大会等を共に楽しむことができ交流の場となった。協力医療機関がかかりつけ医として訪問診療で健康管理を行い、24時間体制で対応している。職員が意見や要望を出しやすい環境を整え、ユニット会議やスタッフ会議のほか、年2回の面談を行い、出された意見など運営に反映させている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果（事業所名 GH桂葉 ）「ユニット名 栗駒 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所にグループホーム桂葉の基本理念を掲示している。理念とは何かを確認しながら実践できるようにしている。	理念「アットホームな環境を整え、温かい家創りを目指す」を掲げ、利用者が楽しく感じられるような居場所づくりを心掛け、介護計画にも反映させている。理念は事務所に掲示し、職員は確認しながらケアを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭等招待を受け参加している。法人全体で行う夏祭りへも参加し、地域の方も参加されている為交流が図れている。	事業所の夏祭りに地域の多くの人々が参加し共に花火大会など楽しんだ。地区の敬老会や生涯学習祭りなどの行事へ参加し交流を深めている。事業所通信「きずな」や「豊明会だより」を行政区内の全戸に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員が認知症キャラバンメイト養成講座を受け、地域に講師に行ったり、研修に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議でグループホームでの取り組み等を報告している。会議の中で、家族からの要望を聞き取り向上に努めている。	市職員、地域包括職員、区長、民生委員、家族代表の参加で年6回開催し、満足度調査の結果、利用者の状況や事故報告、行事等の案内をしている。利用者が外出したことに気づかなかつたケースから、施錠、夜間帯の見廻り強化、センサー設置等、安全性を向上させた。また、事故報告書の形式を変え、改善対策を明確にさせることにした。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の方にも運営推進会議に参加して頂いている。又、生活保護を受けている利用者の方が居る為報告等を行っている。	運営推進会議で、市職員に事業所の実情を伝え理解を深めている。市からは認知症ケアや感染症対策などの研修会や集団指導のお知らせ等がある。また、生活保護を受けている利用者の医療費や家族の転居、事業所の運営上の制度について確認するなど連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の実施、マニュアルの掲示を行い、身体拘束のないケアの確認を行い、取り組んでいる。	年1回、内部研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、外出傾向を把握し、表情や様子から判断し、声かけや一緒に出かける等、寄り添うケアをしている。防犯対策のため玄関を施錠(19:00~8:00)し、夜の見回りを強化する対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施し、職員の意識、理解を高めている。日常生活の中で声掛けや態度等十分気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修時に権利擁護について研修、確認を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、疑問や不安等がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット会議、スタッフ会議を毎月実施しその中で面会時等にご家族の要望があればそれについて話し合い、改善に努めている。	入居時や面会時、また電話で家族から要望を聞くほか、年1回、6月に13項目について満足度調査を行い、要望を運営やケアに生かしている。ユニット会議やスタッフ会議で出された要望等を確認し、改善点等を話し合いケアの向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、スタッフ会議を毎月実施し、意見や思いを提案しやすい環境を整えている。日頃から職員間で話し合える雰囲気作りに努めている。	年に2回、日常の業務、一人ひとりの仕事に対する思いなどからパーソナルレポートを作成している。また、面談を行い、意見・要望を聞く機会を設けている。毎月、スタッフ会議や全体会議で意見交換し、代表者や管理者は職員の意見を聞き、反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のパーソナルレポートの提出、面談により個々の勤務状況や職場環境、仕事内容等話し合う場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理事長は、管理者や職員の経験、能力に応じて外部研修への参加、内部研修の機会を計画実施し育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設の連携医療法人の事業所との連絡会議、外部研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所相談時、本人、家族が不安な事、要望等に耳を傾けている。入所後も安心して生活して頂けるよう、話を傾聴し何でも相談しやすい関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時、入所後の面会時、電話連絡時にご家族様の不安な事、要望に耳を傾け改善するよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様の状況、思いや要望を確認し、その方に合ったサービスを受ける方法を検討し考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に家事の手伝い等を行い、生活を共にし関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡時、面会時にグループホームでの生活の様子を伝えている。本人、家族からの外出希望があった際は協力を得ることが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人とのはがきのやり取りや、面会を行っている。これまでの関係が途切れないようにしている。	近隣や、瀬峰の五輪堂山公園へ花見、一迫のあやめ園の見学等へ行っている。地域の敬老会やお祭り等に参加し、馴染みの人との交流を図っている。家族の協力を得て、買い物へ行ったり、自宅に戻り地区の行事に参加するなど、外泊ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を確認しながら、余暇活動への参加等働きかけている。孤立しないよう支え合えるような関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用終了後についても相談に応じてこれまでの関係性を大切にしている。他の施設への入所や入院等の際には、事前に情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活から本人の思いや希望を引き出すようにしている。発語や理解が難しい方は、表情や行動の中から本人の意向をくみ取るようにしている。	日々のかかわりの中で利用者に声がけし話を聞き、表情や仕草などからも思いをくみ取るよう努めている。職員で話し合い、一人ひとりの思いを検討しケアに生かしている。生活歴など家族や知人からの情報も大切に、今までと変わらない生活ができるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査で聞き取りを行い、その内容を基に、家族の面会時に話を伺ったり把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から利用者一人一人の把握に努めている。ユニット会議においても職員と話し合い利用者の暮らしの状況、役割を持って生活出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月利用者様について話し合い、6ヶ月に1回のモニタリングを行い希望や要望を確認している。現状に即した介護計画を作成する様努めている。	毎月のユニット会議で利用者の状態を話し合い確認している。また、6ヶ月に一度モニタリングを行い、利用者本位の暮らしを実現するため、本人、家族、スタッフ、医師の意見を踏まえて、介護計画を作成している。介護計画は、家族の面会時等や遠方の家族には電話で説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を個人のケース記録、介護日誌に記録している。職員同士で情報を共有しケアの実践や介護計画の見直しを行い、行かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のニーズに合った対応をし、柔軟に対応できる様状況に合わせ支援出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌や、地域の方々から情報を頂き活用する様努めている。又、地域の消防署と連携し年2回の避難訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の回診を週1回実施し、健康管理の把握に努めている。利用者様の体調不良、急変時その際は24時間体制にて指示を頂き対応している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医を受診している。基本、家族が付き添い、受診前に利用者の状態を伝え、受診結果を共有している。必要に応じ職員が同行することもある。また、協力医療機関がかかりつけ医の場合、週1回訪問診療を受けている。体調不良、急変時には24時間体制で医師から指示を受け対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している特養の看護職員の協力を頂いたり、協力医への相談、受診等行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が協力し、医療機関、医師との相談を行い情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期における説明は協力医と連携して行っている。	現在、看取りは行っていないが重度化した場合や終末期については、入居時に法人の関係施設と連携がとれていること、事業所のできることを説明し同意を得ている。食事が取れなくなった時や医療行為が常時必要になった場合には、特別養護老人ホームなど紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備えて、救命講習を受講し適切に実施できるようにしている。又、マニュアルを作成全職員が緊急時の対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルの設置、内部研修の実施にて職員全員が把握、確認できるようにしている。災害時は、近隣の施設に協力要請を行っている。	火災、風水害、地震マニュアルがある。法人内の事業所マニュアルを統一化させると共に、災害発生時に法人全体で対応ができるよう見直しを行っている。内部研修の実施により職員全員が災害時の対応ができるよう努めている。避難訓練を夜間想定で1回を含む年2回、消防署が立ち合い実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人のプライバシーに配慮し、人生の先輩として尊厳を重視している。	年1回身体拘束や権利擁護と合わせ、プライバシー保護についての内部研修を行い、より良いケアになるよう努めている。丁寧な接遇を心がけ、プライド、誇り、尊厳を傷つけない支援をしている。呼び名は基本名前に「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の思いや、希望を出せるような環境作り、自ら選択できるような場面作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人が自分のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日身だしなみを整えている。外出等、外に出掛ける際は職員と一緒に洋服を選んでいく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備、片づけを行っている。一人一人の嗜好の確認を行い、苦手な物が出る際は違うものを提供している。	利用者の好みを把握し、楽しく食事ができる雰囲気作りに努めている。苦手なメニューの時には、代替えなどに配慮している。利用者は職員と一緒に配膳や片づけなど、できることを行っている。メニューは担当職員が作成し、法人の栄養士がチェック、手直しをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事担当が献立作成を行い、管理栄養士に相談しながら栄養のバランスが整った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行っている。ご自分でのケアが難しい方は、職員が介助を行い清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で一人一人の排泄パターンを確認している。その方に合わせてトイレ誘導を行い、又、その方に合ったパットの使用を行っている。	排泄パターンを把握し、利用者に合わせたトイレ誘導、声かけを行い、羞恥心や自尊心に配慮し、個々の状況に応じながらの排泄支援をしている。排泄が自立できるように支援している。本人にあわせたりハパン、パットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給をこまめに行う等し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り、その方に合わせて入浴を進めている。入浴拒否がある方は声掛け、タイミング等配慮し行っている。	基本的には週2回の入浴で、本人の希望や体調を考慮して入浴支援をしている。入浴拒否の際は、無理強いをせず、職員の交替、声かけやタイミングを工夫し対応している。入浴剤を利用し気分転換を図っている。体調が悪いときには清拭等へ変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを整え、日中の活動量等把握し、夜間気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の管理は職員が行っている。内服して頂く際は、名前と日付の確認を行い飲み終えるまで確認している。又、薬の用法や用量についても理解が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の役割や趣味活動、楽しみが持てる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の体調等に考慮しながら、外出の計画をし出かけている。	花見(瀬峰)、あやめ園見学(一迫)、紅葉狩り(鳴子)、白鳥見学(伊豆沼)、初詣(近隣の神社)等季節の外出を計画しているが、職員の人数的関係上、今年度は実施回数が少なかった。近隣の行事への参加や散歩等、利用者の要望に対応できない状況にある。家族と共に墓参りや外食、外泊してくる利用者もいる。	利用者の希望や意向を踏まえ、職員配置を工夫するなどして日常的な外出の機会を増やし、利用者の満足度を高めることができるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食や買い物の際は、本人に確認し支払を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への連絡の希望は聞かれていない。友人等はがきのやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットホール内に季節を意識した装飾を行っている。居心地良く過ごせるよう配慮している。	ホールからは田園風景が広がり季節の移ろいを感じられる。手作りの掲示物が貼られ、トイレの表示やカレンダーなどは大きく見やすい。ソファや畳の小上がりがあり、ゆったり寛げるよう配慮している。温・湿度管理され快適な空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテレビを置くことで、気の合う利用者同士テレビを見たり、少し横になりたい方は和室で休まれたりと思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持ってきて頂き、本人にとって居心地の良い空間となるように工夫している。	可動式ベッド、エアコン、ナースコール、加湿器が備え付けてあり温・湿度が心地よくなるように管理されている。使い慣れた家具や家族の写真、花、筆筒、テレビなどが置かれている。掃除が行き届き、整理整頓され、快適に過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活状況に合わせ、家具、家電の配置を行っている。又、居室、浴室、トイレの表示を分かりやすく工夫している。		